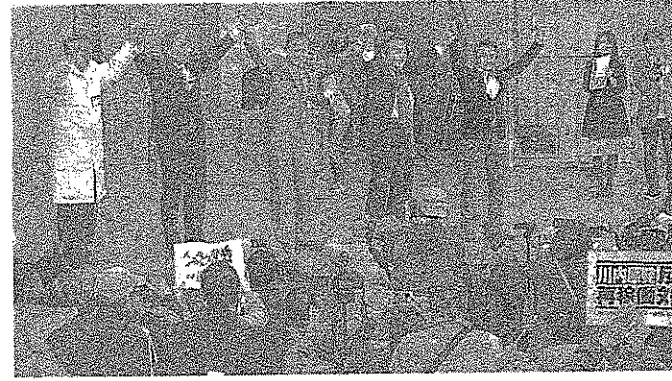


"私たちの声を実現する政治つくろう"

反原連 日比谷野音集會



原発再稼働するなとコールする人たち=5日、東京・日比谷野外音楽堂



「野党は共闘」のかけ声に手を上げてこたえる野党5党の代表。中央は笠井亮衆院議員=5日、東京・日比谷野外音楽堂

5日、首都圏反原発連合(反原連)が東京・日比谷野外音楽堂で開いた「KEEP CALM AND NO NUKES」では、ゲストスピーカーや野党の代表がスピーチしました。

ゲストの3氏が訴え

ゲストスピーカーの先頭を切った城南信用金庫の相談役の吉原毅氏は、個人としてだけでなく、城南信用金庫が企業として「原発に頼らない、安心できる社会へ」を掲げていることを紹介。「金融は世のため人のため、健全な未来をつくるためにお金を貸します。採算性なども厳しくチ

幅広い層に安倍政権への疑問が広がっていることなどを紹介して、「国民の力で変えていかなければいけません」と語りました。政治学者で上智大学

教授の中野晃一氏は、原発や米軍基地などさまざまな問題で「私たちがたかっている相手は、まやかしてだまして、力でわれわれを屈服させて、無力感にさいなまれるようにして、われわれが自発的に服従することをねらっています」と指摘。

「踏みこじられても蹴散らかされてもまた立ち上がり、私たちの声を国会に運んでくれる政治家たちを応援しましょう。私たちの声を実現する政治をつくりましょう」と呼びかけました。

弁護士で慶応義塾大学名誉教授の小林節氏は、電力会社が原発は最もきれいで、安価で安全な電力供給源だと説明していると切り出し、「よくいいですよね。福島事故で、汚くて金がかかって危ないものだとバレバレじゃないですか。恥知らずです」と批判。原発の利権構造を変えること

とについて「憲法上簡単です。いちばん地位の高い政治家を取り換えればいい」と語り、国民世論によって野党の垣根を取り払い、「参院選挙で圧倒して、衆院選挙で政権交代させましょう」と訴えました。

笠井氏ら5野党代表スピーチ

ゲストスピーカーに続き、5野党の代表がスピーチしました。

日本共産党の笠井亮衆院議員は、国民が福島第一原発事故後の4年間、官邸前や全国各地で「再稼働反対」「原発やめろ」と声を上げ続けていると指摘。安倍政権が川内(せんだい)権(鹿児島県)に続き、伊方原発(愛媛県)、高浜原発(福井県)の再稼働を狙っていると

「これが民主主義か。違つ」と力を込めました。「原発事故の後始末もできず、いまも10万人も人が避難している。再稼働の理由は一つもない」と強調。「安倍政権を一日たりとも続けさせるわけにはいかない」と述べた笠井氏は、戦争法

を廃止する国民連合政府の提案にふれ、「民主主義・立憲主義を取

り戻すために、国民の声が届く政治をつくってほしい」と呼びかけました。

民主党の菅直人元首相(衆院議員)、維新の党の初鹿明博衆院議員、社民党の吉田忠智党首(参院議員)、生活の党の渡辺浩一郎元衆院議員がそれぞれスピーチ。いずれも「参院選で野党が力を合わせたい」と決意を語りました。

12/6 手旗